

ある南海トラフ地震や首都直下型地震の演題も多数あり、DMATに関する演題も多かった。パネルディスカッションでは、陸上自衛隊、海上保安庁などから、ヘリコプターや固定翼を使った、患者搬送が討議された。首都直下型地震では、東京の有明の丘にヘリコプター参集基地を造るとの提示があったが、災害時は東京湾は火の海となり、機能しないのではとの討議があった。また災害時のドクターヘリの派遣も東日本大震災後、航空法の改正や中央防災会議で防災基本計画に位置づけられた。

災害時に衛生面を含めていつまでも劣悪さの変わらなく切実な問題である「トイレ」の討議も、熱心に討議された。

今年開催される、伊勢志摩サミットのテロ対策の発表はなかった。沖縄サミット、北海道洞爺湖サミットと、この方面の化学災害テロ対策（CBRNE）は警察、消防、自衛隊、DMATなどを中心にほぼ確立されており、機密の部分も多いと聞いている。2020年には東京オリンピックが開催され、日本集団災害医学会でも「東京オリンピック・パラリンピック対策委員会」が立ち上がっている。

海外での国際緊急援助では、東京医科歯科大学の大友康裕教授の基調講演で、WHO(世界保健機構)が、FMT(Foreign Medical Team)からEMT(Emergency Medical Team)へ、大きく舵をきったWHOの変革の講演があった。エボラ対策の不備などから、WHOが国際災害派遣医療チームの標準化・認証・登録を行うシステムとして整備を進めているFMT Initiativeの名称をEMT Initiativeと呼称するようになった。JICAセッションはASEAN災害医療連携強化プロジェクトで、ASEAN諸国の連携の重要性が昨年のネパール中部地震を含めて東南アジアの若い留学生から発表があった。

展示場には日本赤十字社をはじめとするたくさんのDMAT用の車(写真2)、災害テロ時の薬物分析器などが展示されていた。テロ攻撃で利用された場合に、危険度が高い炭疽菌など8種類の生物剤を、

表面・粉末・液体から採取可能で、わずか15分で検出可能な生物剤マルチ検知器の展示もなされていた。また山形物産品の販売など、山形県あげての学会であった。懇親会には吉村山形県知事と佐藤山形市長も出席された。名物の芋煮や多種の山形地酒が用意され、東日本大震災のチャリティで活動しているお笑いコンビの「サンドウィッチマン」も登場し、会場は大いに盛り上がった。山形県はさくらんぼなどの果実王国、米沢牛などの食彩王国、温泉王国とのことであった。

最終日には軽井沢バス事故の緊急報告の後、DMAT連絡会議も開催された。厚生労働省からは葛西毅彦先生が挨拶をされた。北海道ブロック代表として、北海道での2回の広域搬送実働訓練(室蘭地区と釧路地区)や3月26日の北海道新幹線開業に向けて、1月15日に新函館北斗駅近くに新幹線をとめて、消防、DMAT、ドクターヘリなどが集結した訓練を報告した。



写真2：展示場

おわりに

来年の第22回は、愛知医科大学の中川隆教授が会長となり、2017年2月13日～15日に名古屋国際会議場で開催される。帰りの2月29日は、北海道は帯広方面など暴風雪に見舞われ、釧路・女満別便の欠航で、仙台市で2泊の滞在を余儀なくされた会員の方もおられた。また途中の青森市は温暖化異常現象であろうか、55年ぶりという初雪が降っていた。

北海道医師会 育児サポート事業のご案内

**病児・病後児の預り時に、
ぜひご利用ください!**

北海道医師会が利用料金の一部を負担する、会員限定の利用券での支払いが可能です。



子育て中の医師の仕事と家庭を
両立するためのサポートです。

お問合せ先

一般社団法人 北海道医師会 事業第三課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 FAX 011-231-7272

TEL 011-231-7300 E-mail josei-dr-shien@m.douji.jp

